



## 優秀賞

●団体名・グループ名

つぎ  
**広川町立津木中学校 環境整美委員会**  
**ゲンジボタル保護班**

◆審査委員の評価ポイント

ホタルを環境の指標としてとらえ定点固体調査、水質調査を軸に、広く、保全のための資料をつくり、幼虫も放流している事は高く評価できる。

特に、以下の点は審査委員から個別の評価を受けている。

- ・15年以上にわたるホタルの保護を目標とした水辺環境の調査、水質浄化実験等の成果
- ・水をテーマにした環境保全学習を、体験、調査研究など科学的な視点も入れて行っている点
- ・水環境の取り組みとホタルの保全の取り組みとが相互に補完している点

●活動の場所

和歌山県有田郡広川町  
本校校内における広川沿いの14地点、  
本校のホタル飼育小屋及び  
校内のホタル飼育水槽等

●活動したこどもの人数

20人

●活動したこどもの学年

中1～3年

●活動の概要

本校では、平成元年より郷土の自然を愛し進んで水環境を保全する態度を育てるために、当時少なくなりかけていたゲンジボタルの人工飼育と幼虫の放流、ホタル保護を呼びかける活動を始めました。平成8年よりホタル数の増減を正確に知るために、全校生徒で校区内14地点において毎晩ホタルを観察し、定点個体数調査を行っています。ホタルの成虫を300匹ほど飼育箱に入れ産卵させ、毎年約7～8万匹のホタルの幼虫を孵化させ広川の各地に放流したり、研究用に飼育しています。また校区内30ヶ所にホタル保護カンパンを2ヶ月間設置し、地域に保護を呼びかけます。平成11年から総合的な学習の時間において、「ホタルの生息に適する環境とは何か」「ふるさとの広川の水環境を保全するにはどうしたらよいか」をテーマにし、「水」を柱とする環境保全学習を行っています。活動内容は水生生物調査による水質判定、CODパックテスト（化学的酸素消費量調査）、PHパックテストでの水質調査、ホタルのエサとなる巻貝カワニナの生息数や生態調査、川底や川岸の状態と魚・植物の種類の種類調査です。調査結果は、学習発表会や学校HP、町広報誌等を通じて、情報発信しています。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500100/monthly16/kyouikujimu/arida7/arida7.html>

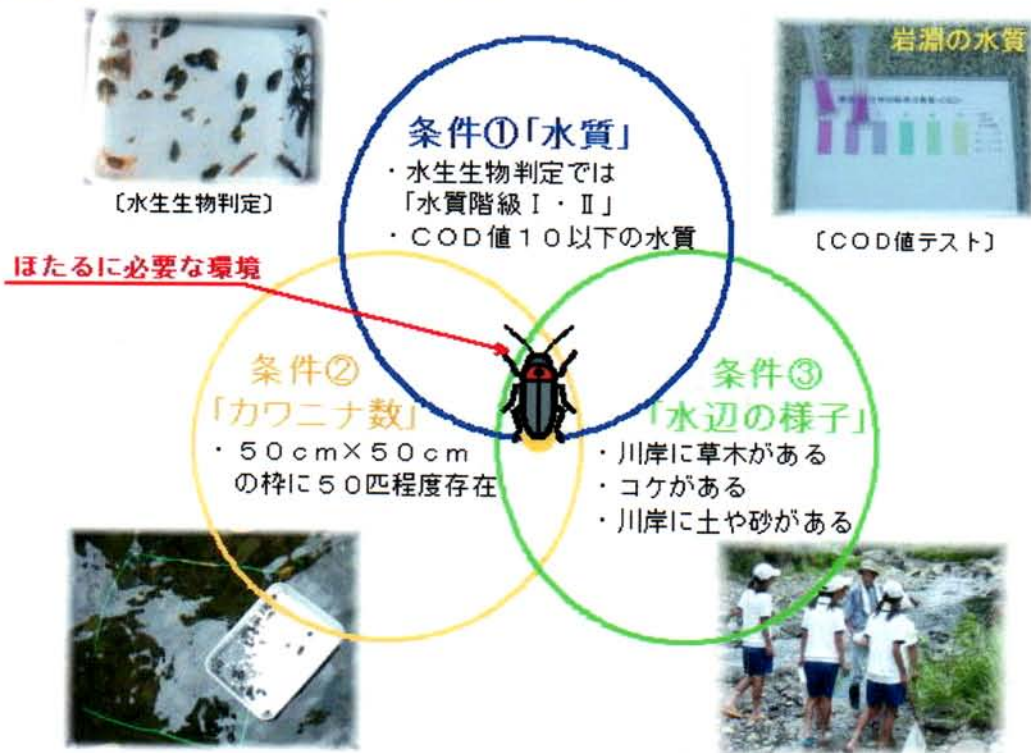
活動した団体・グループ名

広川町立津木中学校  
環境整美委員会 ケンジボタル保護班

活動の場所

校区内の広川沿いの14地点(冊子2ページの広川町全体図参照)  
本校のホタル飼育小屋及び校内のホタル飼育水槽等。

おもしろかったこと、環境大臣やみんなに伝えたいこと



私たちの調査結果からホタルの生育には、「きれいな水質」「十分なカワニナ」「川辺には草やコケ」という3つの条件が必要であることがわかりました。ホタルは汚れた川には生息できません。また入里離れた源流にも生息できません。ホタルの食べる巻き貝カワニナが生活排水に含まれている有機物を食べているためです。人間の生活とホタルの生息環境には密接なつながりがあります。ホタルの生息環境を守ることは

私たちの生活を守ることなのです。そして私たち一人一人のやさしさが集まって津木のホタルがあります。私たちはホタルが大好きです。ホタルが舞う自然はふるさとの誇りです。



活動の内容



・総合的な学習で、ホタルの飼育について学習します。



・津木地区30箇所にホタルの保護カンバンを説置しています。



・生徒全員が14地点に分かれて毎晩ホタルの調査と捕獲を行います。



・調査結果は毎朝グラフに記入し、ホタルマップで地区別飛翔数を表示します。



・捕獲したホタルは、メス20匹オス60匹の割合で飼育箱に入れます。



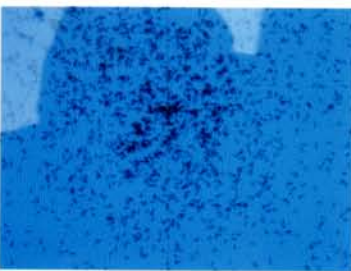
・ホタルは草の上で交尾し、コケの上に産卵します。



・ホタルの発光シーンです。左がメスで右がオスです。



・黄色い粒がホタルの卵で、大きさは0.5mmくらいです。メス1匹で500個くらい産卵します。



孵化したばかり…体長1.5mm



2ヶ月後…体長4mm



4ヶ月後…体長2~3cm

・虫かきはカワナを食べて成長します。ふ化して5mmになるまでは3ヶ月かかりますが、このころから盛んにカワナを食べ、5ヶ月後には約30mmに成長します。

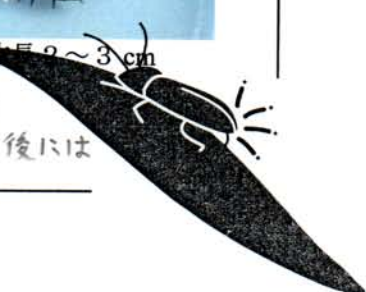


写真 または イラスト (タイトルを入れてください)



・毎年幺カ虫を5〜6万匹を  
広川各土也に放流しています。



・月に2回ホタルのエサのカワ  
ニナを採取します。



・幺カ虫が小さい間は貝のふた  
をピンセットで取り除きます。



・水木曹で幺カ虫を飼育してい  
ます。



・水生生物言調査を全校生徒  
で6年間行っています。



・見つけた水生生物をもとに  
水質を判定します。



・石研究成果はパネルにしてホタル  
の湯ふれあい公園に展示してい  
ます。



・広川町の生涯教育で年配己の人  
60人にホタルの石研究について発表  
しました。



・県内の小・中・高校生が集まった  
わかやま環境ジュニアサミットで  
取り組みを発表しました。



・平成16年10月に日本学生科学賞  
「県知事賞」をいただきました。



「また子」



「また恵」

津木中生が描いたホタルのシンボルマークです。

工夫したところ・水盤で幼虫を飼育していたが(左)水が濁りがちで水温も高くなり自作水槽に替わり換えました(右)。フィルターと容器内に木炭を入れると水の濁りが吸い取られ効果抜群でした。



・美術の授業で、ホタルの保護ポスターをパソコンで工夫して作りました。



・技術の授業で、ホタルの捕獲網を作りました。柄の部分は、地元特産の黒竹を使っています。

これからやりたいこと

- ・先輩たちが長年取り組んできたゲンジボタルの保護と飼育をこれからも続けていきたいです。
- ・ゲンジボタルのエサである巻き貝カワニナの養殖を行い、広川にカワニナを放流し、ホタルの生育環境を広げたいと思います。
- ・植物による水質浄化の研究を行い、広川の植物(ヨシや水草)を増やすことで、きれいな水質を守りたいと考えています。

〔昨年から行っているカワニナの養殖〕



〔昨年から行っている水草による水質浄化実験〕

